

國學院大學學術情報リポジトリ

近世国学の靈魂觀をめぐるテキストと実践の研究： 靈祭・靈社・神葬祭

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 久史 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001769

「近世国学の靈魂觀をめぐるテキストと 実践の研究 ―靈祭・靈社・神葬祭―」

プロジェクト責任者 松本 久史

1. はじめに

本事業は、近世の国学・神道を対象として、靈魂觀を中心とした死生觀や、死および死者関わる諸儀礼（葬儀・靈祭など）に焦点をあてて実証的な分析を行おうとするものである。具体的には、テキストの内容分析やテキストの成立、それが書物としての形態をなして流通していくプロセスなどを含めた当該テキストの社会史的文脈の把握、地域の神職や国学者らによる葬儀・靈祭など社会的実践の実証的理解とそこでの書物の用い方や関係情報の共有のあり方などの分析を通して、近世国学における靈魂や死後をめぐる思想と実践をトータルに理解することを目的としている。

2. 平成 20 年度の事業成果

3 カ年にわたる計画のうち、平成 20 年度は初年度にあたり、下記の各項目にしたがって事業を展開した。

I 国学の靈魂觀関係の主要テキストの分析

(1) 国学者の靈魂論・幽冥論関係テキストの調査・収集、『靈能真柱』精読会、校注作業、(2) 神葬祭関係書の収集・調査・分析

II 神葬祭・靈祭・靈社建立を中心とした社会的運動の分析

(1) 鈴門における靈魂觀と実践に関する地域調査、(2) 三河国における神葬祭運動の調査・内容分析、高玉家文書の読解、気吹舎関係者の幽冥觀に関する調査・研究

III 研究成果の公開

研究会の開催、関係論文の発表、高玉家文書の既翻刻部分の校正・確認及び出版準備

以下、各項目にしたがって成果を説明したい。

I 国学の靈魂觀関係の主要テキストの分析
先行プロジェクトを引継ぎ、靈魂觀関係著述目録の内容の充実化を図り、これを利用して調査を進めるとともに、「靈能真柱を読む会」を組織して定期的に研究会を開催、東京大学本居文庫本『靈能真柱』を精読し、『古事記伝』や「三大考」、『古史伝』『古史徴』を参照しながら、深い理解と活発な議論を目指した。本年度は序から本文 17 丁まで読み進めた〔I (1)〕。関連テキストへの目配りを含めて、充実した議論が行われた。並行して、Web 上での公表にむけて『靈能真柱』本文のおよそ三分の二を電子データ化した。

また、明和 6 年から文久元年における山城国向日社の葬祭の内容を記した『歴代葬送之記』の翻刻作業を行い、全 148 丁のうち、50 丁（文化 3 年）までの入力を終えた〔I (2)〕。
II 神葬祭・靈祭・靈社建立を中心とした社会的運動の分析

鈴門の靈祭・靈社を中心にした実践に関しては〔II (1)〕、鳥取と和歌山で調査を実施した。鳥取では県立図書館寄託飯田年平関係資料、県立博物館所蔵鳥取藩藩政資料、加知彌神社、門脇重綾関係資料の調査を行った。飯田家関係資料は飯田秀雄・年平親子による神葬祭復興・請願運動についての研究に資するものと

考えられ、調査後に神葬祭関係資料の仮目録を作成した。門脇重綾については明治初年の建白書や書簡、神祇行政に関する文書群を撮影した。今後はこれらの分析が課題となる。和歌山では新出の藩政記録「類集」「類集略記」を蔵する和歌山市立博物館を訪れ、同時代資料から国学者の実践を確認した。和歌山大学附属図書館では本居内遠による『紀伊国神名帳』の長沢伴雄書入本などを閲覧・収集した。

Ⅲ 研究成果の公開

三ツ松誠はⅡにおける和歌山調査に関連して、単著論文「本居内遠「古学本教大意」の再検討—本居文庫本の翻刻から—」（『國學院大學研究開発推進機構紀要』（以下、『機構紀要』と略称）第1号、國學院大學研究開発推進機構、平成21年3月）を発表した。

靈魂観をめぐる実践は鈴門に限らず重要であり、松本久史は国学者における実践の淵源として、荷田派を対象にした単著論文「国学者の靈魂観—その思想と実践—荷田派を中心に—」（『機構紀要』第1号）を公表した。

また、先行プロジェクトから引き続いて高玉家文書の読解を進め、気吹舎関係書簡32通を『機構紀要』第一号に「相馬地方における平田鋏胤書簡（Ⅵ）」として掲載する（翻訳・翻刻書、共著）とともに、データ整理を実施し、一括出版に向けて準備を進めた。

そして、研究開発推進センター事業「招魂と慰霊の系譜に関する基礎的研究」との共催で、平成20年12月に行われた神道宗教学会第62回学術大会においてテーマセッション「幕末期の神道と靈魂観」を実施した〔Ⅰ（1）、Ⅱ（2）、Ⅲ〕。このテーマセッションでは、松本久史が司会・コーディネーターを務め、遠藤潤が研究開発推進センター中山郁講師と並んでコメンテーターとなったほか、プロジェクトメンバーのうち3人が気吹舎関係者の幽冥観に関して報告を実施し、調査・研究の成果を公表した（小林威朗「岡熊臣の靈魂観」、

星野光樹「六人部是香の靈魂観」、三ツ松誠「「幽界物語」の波紋」）。また、儒家神道の靈魂論の流れを論じた、松本丘（皇學館大学准教授）による「近世における靈魂観—儒家神道・水戸学を中心に—」の報告もあり、活発な議論が行われた。要旨は『神道宗教』誌に掲載予定である（学会発表等、共著）。また、小林威朗はその報告の一部を基に単著論文「岡熊臣『三大考之追考』の「天地泉」—靈魂観研究の序として—」（『機構紀要』第1号）を発表した〔Ⅰ（1）、Ⅲ〕。平成21年3月には、遠藤潤がケンブリッジ大学セルウィンカレッジで開催されたTokugawa Conferenceにおいて、Ⅰの「靈能真柱を読む会」での読解をふまえて「幕末における国学・仏教と国家—平田国学の仏教批判と仏教からの反批判—」の報告を行い、国内外の近世思想・宗教の研究者たちとの意見交換を行った。

3. 平成21年度の事業予定

平成21年度は下記の実施計画に沿って事業を進めている。

Ⅰ 国学の靈魂観関係の主要テキストの分析

国文学研究資料館、国立国会図書館、国立歴史民俗博物館など都内や東京近郊の資料所蔵機関をはじめ、諸機関において靈魂論・幽冥論の関係資料の調査・収集を行う。また、『靈能真柱』精読会・校注作業については、平成20年度からひきつづき、事業担当者およびこのテキストに関心のあるポスドク、大学院生なども参加者として、『靈能真柱』の研究会を定期的に開催し、初期の版本をメインテキストに、先行の校注や研究を再検討するとともに、総合的な読解を目指して『古史伝』など他の篤胤の著作、およびそれらと深く関わる門人・関係者らによるテキストとの比較をしながら、新たな注釈作業を行う。また、『靈能真柱』の精読の成果をwebを利用して

公開すべく、テキストの体裁や公開の具体的方法などについて検討する。電子テキスト化を継続して行うとともに、タテ書での HTML ファイルを構築すべく、必要な作業を開始している。神葬祭関係書の調査・収集・分析についても、昨年度にひきつづき、未刊行資料の収集や既刊テキストの再検討を行っている。

Ⅱ 神葬祭・霊祭・霊社建立を中心とした社会的運動の分析

鈴門の霊祭運動と神葬祭の調査・分析については、平成 20 年度の調査をふまえ、飯田年平を中心に山陰地方を対象とした鈴門および関係国学者に関する史料の分析を行う。また、「三大考」論争にもかかわった遠江国の鈴門系国学者夏目甕麻呂とその関係人物についての現地調査を実施している。また、平田家のイエの祭祀の調査として、国立歴史民俗博物館所蔵「平田家資料」および秋田県立公文書館所蔵平田家関係史料を調査し、平田家のイエや一門における霊魂に関わる実践を明らかにする。

Ⅲ 研究成果の公開

「近世から近代初頭における国学の霊魂観」をテーマとしたミニ・シンポを開催し、本事業のメンバーおよび外部からの発題者によって標記のテーマをめぐる議論を行うことを予定している。また、解説を進めている高玉家文書の既翻刻部分について、校正・確認や出版準備の作業を進めている。